

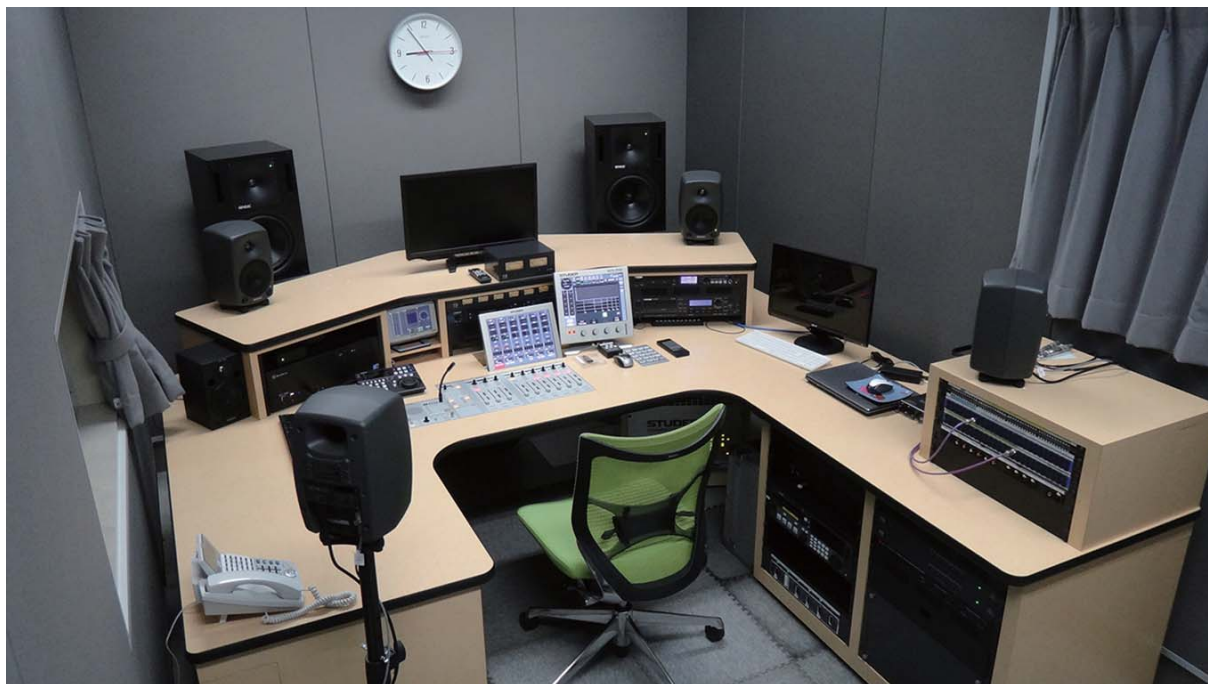


OnAir 3000 ユーザーレポート

福井テレビジョン放送株式会社 様

OnAir 3000

ダビング室をOnAir 3000で更新



福井テレビジョン放送株式会社
技術局 技術部
浅井 正俊

ダビング室

2013年10月、ダビング室を更新しました。それまでの音声卓は、20年以上運用しており更新時期に来ておりました。このダビング室は、CM素材である静止画の音声ファイルを作成する所です。音声ファイルは、基本的にアナウンサー原稿読みとBGMのミキシングです。また、MA作業も行われます。次期音声卓として、CM音声ファイル作成、MA作業、近い将来を見据えたコンソールを総合的に検討しました。CM素材を扱うダビング室として、音質・音響環境など、妥協無く、また、作業の流れを一から見直し、取捨選択を行いつつ、いろいろなコンソールを検討する中で、OnAir 3000に出会いました。



実績・音質・信頼性等を満足するコンソールでした。特に、ワンマン作業に特化した仕様等、弊社の運用にマッチしたものでした。ただ、STUDER製の音声卓は、弊社では初めての導入ということでしたので慎重に検討しましたが、実機での音質・操作性等、総合的に判断してSTUDERに決定しました。最後に悩んだ事が、サラウンド対応にするかどうかでした。OnAir 3000か、OnAir 2500か。検討項目で、CM音声ファイル作成の重要性・将来を見据えたコンソールということで、OnAir 3000にしました。

機能とデザインの両立

特にコンソール周りのリモート系、デスク、PC、CD等、各機器類の配置をどうするか、限られたスペースで、動きに無駄がないようにするにはどうすればいいか、時間を掛けて議論しました。STUDER殿、日東紡音響エンジニアリング殿からの的確なアドバイスがあり、実用的にもデザイン的にも見事に完成された音声卓が出来上がりました。また、アナブース内も経年劣化のため、マイク、カフBOX、アナテーブルも含め全て刷新しました。コンソールに目がいきがちですが、改めて卓周りの機能性・デザイン性の大切さを実感しました。

運用開始から1年

現在、運用開始して1年になります。トラブルも全くなく、また、MA作業もスムーズに行われています。技術部員だけではなく、誰でも簡単に扱える音声卓である事も課題でしたが、心配することなくクリアされました。ダビング室が更新され、環境も変わり、集中して作業が出来るようになりました。サラウンド素材は、まだまだ少ないですが、サラウンドを聞ける環境が出来た事は良かったと思います。現在音声素材が多岐に渡って持ち込まれます。柔軟に運用出来る事、素材管理出来る事も、これから必要になるファクターだと思っています。

最後に、思い描いていた以上のダビング室が完成した事、STUDER殿、日東紡音響エンジニアリング殿に感謝申し上げます。

